

ふくしま歴史資料保存ネットワーク

設立：2010年11月27日

※おかげさまで15周年を迎えることができました

呼びかけ人：公益財団法人福島県文化振興財団、福島県立博物館、
福島県史学会、国立大学法人福島大学
代表・事務局：福島大学行政政策学類 阿部浩一

活動報告①：富岡町と福島大学の協定締結10周年を記念したポスター展を開催しました

ここでは、とみおかアーカイブ・ミュージアムの企画展「富岡町と福島大学のあゆみ～地域の歴史をつなぐ」に関連するものを抜粋してご紹介します。

協定締結10周年の企画展

2015年8月の協定締結から10周年を迎えるにあたり、とみおかアーカイブ・ミュージアムで企画展「富岡町と福島大学のあゆみ～地域の歴史をつなぐ」が開催される運びとなり、その展示の一部を福島大学生に任せてもらえることになりました。2016年に福島大学教員（阿部浩一・小松賢司・徳竹剛）が参加してレスキューが行われた堀川家資料を大学で預かり、記録整理していたことから、博物館実習生（古文書選択）が富岡町と堀川家をテーマに展示を企画し、自分たちで展示づくりも行いました。以下、その概要をポスターでご紹介します。



展示1：多古藩陣屋と堀川家

江戸時代後期の嘉永3年（1850）、下総国多古藩（現在の千葉県香取郡多古町）藩主の久松松平の当主勝権（かつのり）のときに、江戸幕府から身柄を預かった罪人の脱走を許す失態を犯し、その処分として所領の大半が領地替となりました。没収された本領に代わって与えられたものの一つが陸奥国楡葉郡（現在の富岡町・楡葉町・広野町など）でした。上郡山村の名主であった堀川半左衛門家の分家の空家家が、陣屋として使われました。

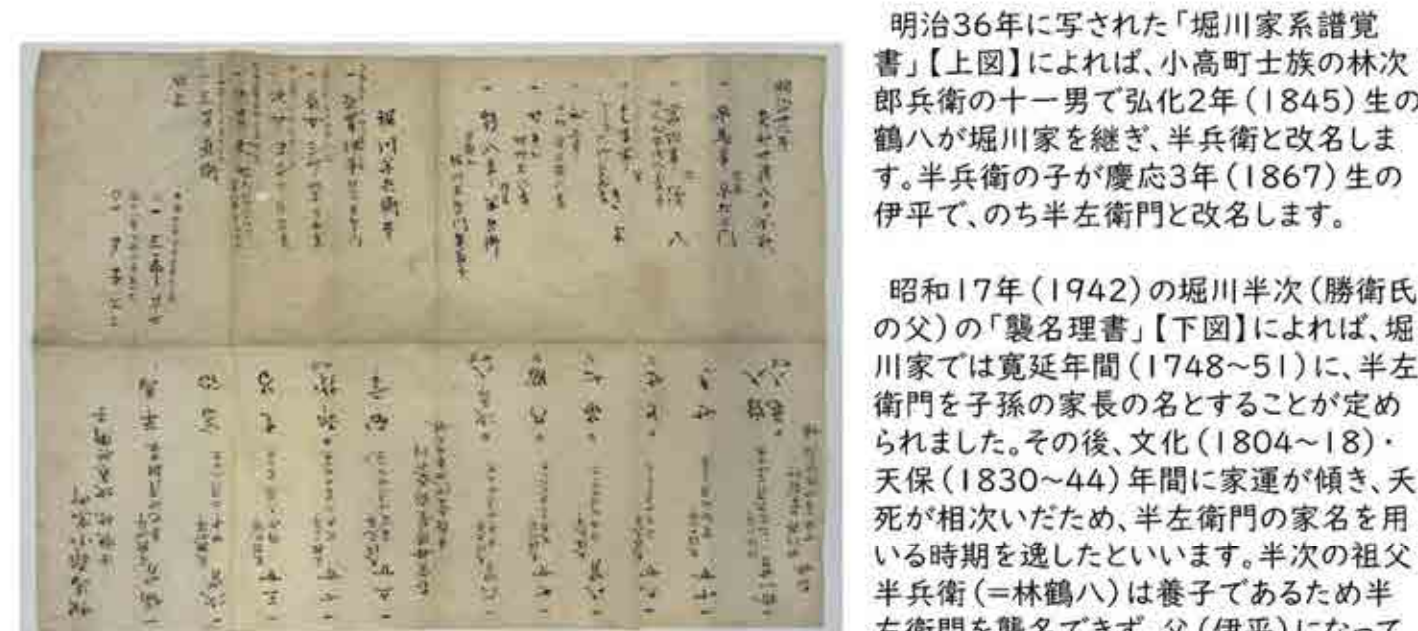


陣屋とは、江戸時代に城を持たない小藩主や、領地替で城がない所領を治めることになった藩主の拠点として置かれたものです。陣屋は城と異なり、堅牢な防御機能は有さず、領内政治の中心、藩主の居館として機能していました。

多古藩陣屋絵図（部分）
絵図の左側に描かれているのが堀川家の屋敷です。手前には大きな倉が描かれており、この地域の有力な主であったことがうかがえます。右側の屋敷は、多古藩の陣屋として堀川家から提供されました。周囲は立派な門と塀で囲われています。

展示2：『富岡町史』編纂と堀川勝衛氏

堀川家に伝来した資料の中に、富岡町史編纂委員長をつとめた堀川勝衛氏のものがあります。昭和60年（1985）に旧富岡町と旧双葉町の合併30周年を迎えるにあたり、その記念事業の一環として『富岡町史』の編纂が始まりました。『富岡町史』は、通史編、資料編、考古・民俗編、別巻続編・追録編の全4巻で構成されています。勝衛氏は富岡町史編纂委員に選出され、委員長として事業を牽引しました。また、通史編の多古藩に関する部分を執筆しました。『町史編纂』における多古藩についての原稿は執筆の際に使用されたものと考えられます。



明治36年に写された「堀川家系譜書」【上図】によれば、小高町土族の林次郎兵衛の十一男で弘化2年（1845）生の鶴八が堀川家を継ぎ、半兵衛と改称します。半兵衛の子が慶応3年（1867）生の伊平で、のち半左衛門と改称します。

昭和17年（1942）の堀川半次（勝衛氏の父）の「署名理書」【下図】によれば、堀川家は寛政年間（1748～51）に、半左衛門を子孫の家名とすることになったとされています。その後、文化（1804～18）、天保（1830～44）年間に家運が傾き、天保が相次いだため、半左衛門の家名を用いる時期を逃したといえます。半次の祖父半兵衛（＝林鶴八）は養子であるため半左衛門を襲名できず、父（伊平）によってようやく襲名できたため、自分も同じ襲名を願ったといわれています。

この2点の資料から、江戸後期に林家から養子入りした半兵衛（鶴八）＝半左衛門（伊平）＝半左衛門（半次）＝勝衛という堀川家当主の系譜を確認することができそうです。

勝衛氏による『富岡町史』の原稿

展示3：堀川勝衛氏の教育活動

堀川勝衛氏は、長年相双地域を中心に教員として勤めていました。勝衛氏は特に農業教育に力を注いでおり、教育者として多数の表彰を受けていました。勝衛氏は昭和11年（1936）に福島県立相馬農業高校の前身にあたる福島県立相馬農蚕学校を卒業しており、ここの学びが勝衛氏の農業教育の原点であると言えるでしょう。勝衛氏の教員としての人生は、昭和13年（1938）から福島県西白河郡尋常高等小学校と青年学校の教員として任命されたことから始まります。昭和54年（1979）に退職するまで、41年間も教員として奉職しました。勝衛氏は教育面以外でも、母校の相馬農高で大きな功績を残しました。昭和51年（1976）に相馬農業高校創立70周年記念事業として企画された『相馬史』の編纂に關わり、刊行後には感謝状が贈られました。勝衛氏が『富岡町史』編纂に携わった約10年前のことでした。相馬農業高校創立80周年記念式典でも感謝状が贈られており、勝衛氏が相馬農業高校の教頭として振興発展に尽くしていたことがわかります。



福島県公立学校教員の任命状（1953年）



【上】『相馬史』編纂への感謝状
【左】相馬農業高校教員の集合写真（▼が勝衛氏）

活動報告②：そうまネットと連携して調査を続けています



2023年3月にそうまネット・宮城資料ネットと連携して保全した『野崎家資料』の一部を福島大学で調査し、成果報告会を実施して、新たな知見を地域と共有するようにしています。新たに、明治期の当主野崎亀喜氏の発電事業（中村電気）、町会議員としての活動、篤志家としての面などが明らかになりました。

活動報告③：福島市内の旧家の資料整理も続いています

福島市内の旧家で保全した資料については、夏の集中作業にて整理を進め、大学の授業で撮影しています。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。



ふくしま史料ネットfacebook

